

当地区のバリアフリー整備に関する意向調査

1. 調査概要

(1) 調査目的

バリアフリー基本構想策定にあたり、重点整備地区内に居住している移動制約者（65歳以上の高齢者、身体障害者、妊産婦）の実態や要望を把握することを目的としています。

(2) 調査方法

調査対象者

JR河内磐船駅・京阪河内森駅から概ね1km以内（天野が原町、私部南、向井田、森北、寺南野、森南、寺1・2丁目、私市1～5丁目）の居住者で、65歳以上の高齢者、身体障害者、妊産婦の方。

調査方法

郵送配布・郵送回収方式のアンケート調査

調査期間

平成13年9月8日～9月16日（集計作業に間に合う9月25日着分まで含めた）

2. 調査結果

2-1 回収状況

表. 回収状況

調査対象者	配布票数 A	不到着 B	有効数 A-B=C	回収数 D	回収率 D/C	備考
高齢者	1,554	4	1,550	725	46.77 %	平成13年8月現在、65歳以上1,554名。但し、身体障害者を兼ねる方126名を除く。
障害者	317	18	299	134	44.82 %	平成13年4月現在、身体障害者手帳発給者317名。
妊産婦	151	4	147	69	46.94 %	平成12年4月～平成13年3月の妊娠届出者151名。
合計	2,002	26	1,996	928	46.49 %	

2 - 2 回答者の属性

回答者の8割を高齢者が占め、活動的な前期高齢者が多いことについて、全体の回答が大きく影響を受けることに留意する必要があります。

一方で、障害者の回答は全体の2割であり、特に視覚障害者の回答が少なくなっています。

回答者は、高齢者(78.1%)：障害者(14.4%)：妊産婦(7.4%) = 8 : 1.5 : 1です。

高齢者では、前期高齢者の方が多くなっています(前期高齢者(65~74歳)：後期高齢者(75歳以上) = 6 : 4)。

障害者では、「内部障害」(32.8%)、「肢体不自由(車いす利用ではない)」(32.8%)を合わせて障害者の約6割を占めています。「肢体不自由(車いす利用)」(20.1%)は約2割、「聴覚・平衡機能障害」「音声・言語機能障害」は合わせて約1割あります。一方で、「視覚障害」の回答者は6名と少なくなっています。

妊産婦では、20歳代までが約4割、30歳代が5割を占めています。

表 . 高齢者 (725 名、78.1%)

全体	男性	女性	不明				
725	321	334	70				
100.0	44.3	46.1	9.7				
全体	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	不明		
725	264	182	86	95	98		
100.0	36.4	25.1	11.9	13.1	13.5		

表 . 障害者 (134 名、14.4%)

全体	男性	女性	不明				
134	72	48	14				
100.0	53.7	35.8	10.4				
全体	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語機能障害	肢体不自由(車いす利用)	肢体不自由(車いす利用ではない)	内部障害	不明
134	6	9	9	27	44	44	13
100.0	4.5	6.7	6.7	20.1	32.8	32.8	9.7
全体	0~18歳	19~64歳	65~74歳	75歳以上	不明		
134	2	58	32	26	16		
100.0	1.5	43.3	23.9	19.4	11.9		

表 . 妊産婦 (69 名、7.4%)

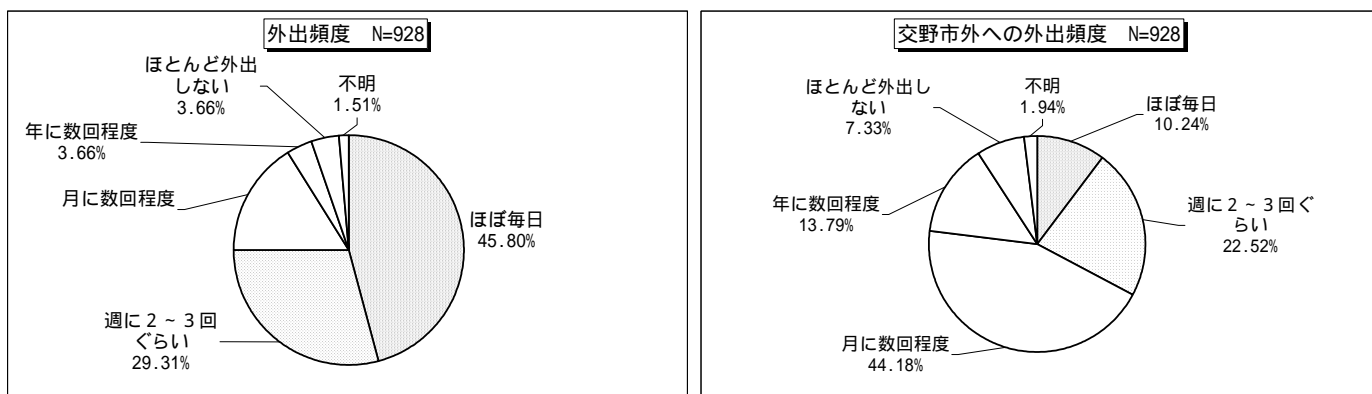
全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳以上	不明		
69	2	26	35	0	6		
100.0	2.9	37.7	50.7	0.0	8.7		
全体	妊娠中	1人	2人	3人	4人以上	不明	
69	0	34	27	4	0	4	
100.0	0.0	49.3	39.1	5.8	0.0	5.8	

2 - 3 外出実態

(1) 外出頻度

約7割が週の半数前後外出していますが、交野市外への外出は約3割となります。

「ほぼ毎日」(45.8%)と「週に2～3回ぐらい」(29.31%)を合わせると、約7割が週の半数前後外出しています。交野市外への外出では、「ほぼ毎日」(10.24%)と「週に2～3回ぐらい」(22.52%)を合わせると、約3割に外出頻度が下がっています。



(2) 介助者・同伴者の有無(交野市外への外出時)

障害者の約3割が「外出時に介助が必要」と、外出の困難さがうかがわれます。また、妊産婦は「同伴者との外出が多い」が6割強を占めています。

「外出時に介助が必要である」のは、高齢者では1割弱(7.9%)であるのに対して、障害者では約3割(34.3%)と多くっており、障害による外出の困難さがうかがわれます。妊産婦では約6割(62.3%)が、「同伴者との外出が多い」と答えています。

表・外出時の介助者・同伴者の有無

	全体	介助者が必要である	一人で外出できる	どちらとも言えない	不明
合計	859	103	683	41	32
	100.0	12.0	79.5	4.8	3.7
高齢者	725	57	611	30	27
	100.0	7.9	84.3	4.1	3.7
障害者	134	46	72	11	5
	100.0	34.3	53.7	8.2	3.7
	全体	同伴者との外出が多い	同伴者がいない場合が多い	どちらとも言えない	不明
妊産婦	69	43	18	8	0
	100.0	62.3	26.1	11.6	0.0

(3) 交野市外への外出方法

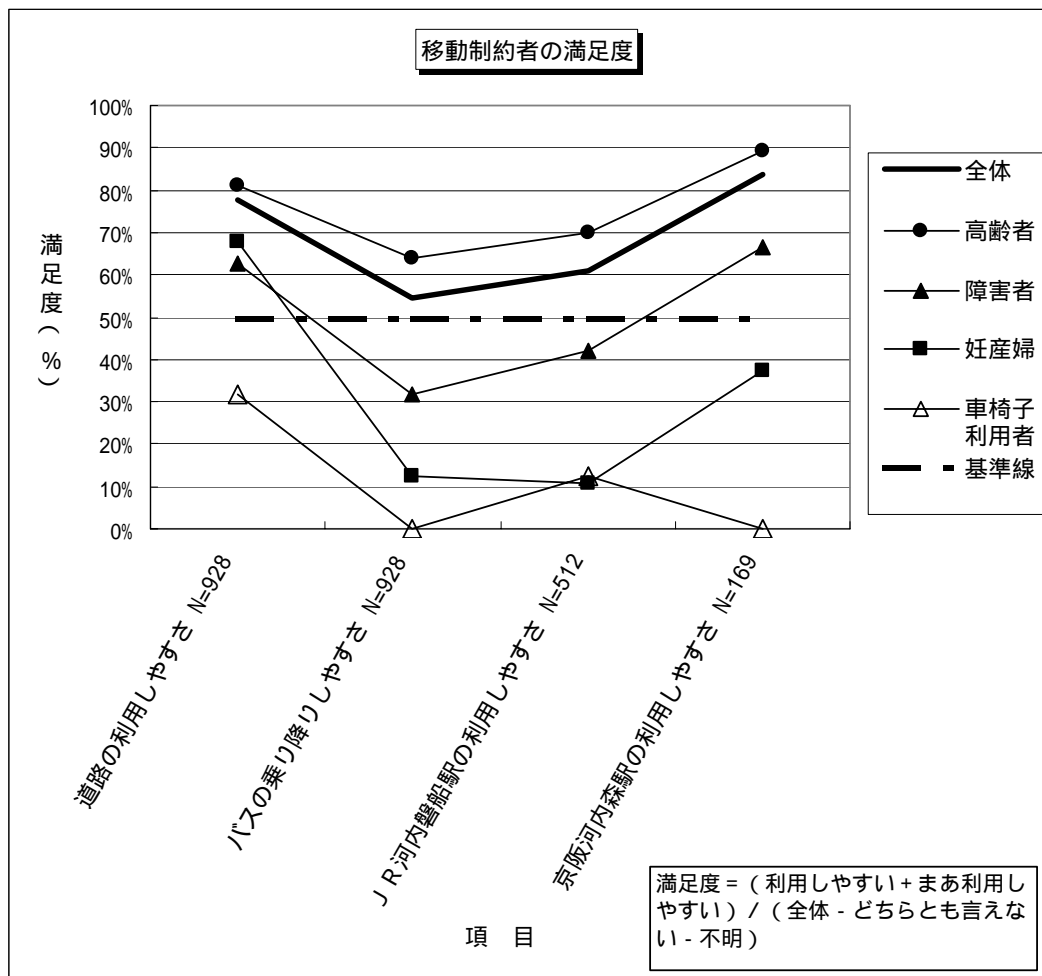
交野市外への外出方法では、高齢者、障害者は「電車」「自家用車」の順ですが、妊産婦では「自家用車」の回答の方が多くなっています。

表．交野市外への外出方法の上位

高齢者	電車	自家用車	自転車、バイク	バス	徒歩	タクシー
	560 77.2	321 44.3	126 17.4	116 16.0	101 13.9	63 8.7
障害者	電車	自家用車	タクシー	バス	自転車、バイク	手動車いす
	83 61.9	70 52.2	30 22.4	24 17.9	10 7.5	10 7.5
妊産婦	自家用車	電車	バス	自転車、バイク	タクシー	徒歩
	61 88.4	44 63.8	6 8.7	5 7.2	2 2.9	2 2.9

2 - 4 移動制約者の満足度とその原因

「最寄り駅やバス停までの道路」「京阪バスの乗り降り」「JR河内磐船駅の駅舎やホーム」「京阪河内森駅の駅舎やホーム」の利用しやすさとして、移動制約者の満足度を求めました。



(1) 最寄り駅やバス停までの道路

最寄り駅やバス停までの道路について、高齢者、障害者、妊産婦ともに満足度は 50%を上回っています。

高齢者、障害者、妊産婦ともに、幅員や連続性、段差などの歩道の問題があげられています。

道路の利用しやすさ(満足度)

最寄り駅やバス停までの道路について、高齢者、障害者、妊産婦ともに満足度は 50%を上回っています。一方で、障害者と妊産婦は、全体の満足度を若干下回っています。

道路利用の際に困ること

道路利用の際に困ることでは、高齢者、障害者、妊産婦ともに、「歩道の幅が狭い」「歩道がないか途切れている」「段差がある」といった、歩道の問題が上げられています。

「誘導ブロックが連続していない」は下位ですが、視覚障害者の回答が少ないことが影響していると思われます。

表. 道路利用の際に困ることの上位

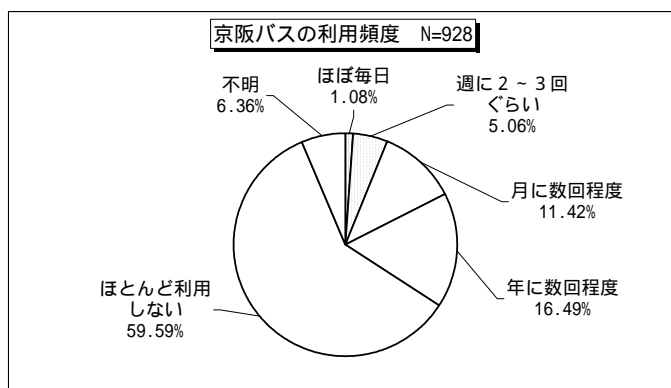
	全体	歩道の幅が狭い	歩道がないか途切れている	段差がある	不法駐車が移動の支障である	路面が悪い	勾配がきつい	信号が必要である	電柱や標識が移動の支障である	看板や放置自転車が移動支障である	誘導ブロックが連続していない
合計	928 100.0	319 34.4	317 34.2	228 24.6	180 19.4	154 16.6	97 10.5	93 10.0	51 5.5	32 3.4	7 0.8
高齢者	725 100.0	240 33.1	229 31.6	154 21.2	143 19.7	115 15.9	67 9.2	81 11.2	36 5.0	25 3.4	4 0.6
障害者	134 100.0	50 37.3	46 34.3	41 30.6	28 20.9	22 16.4	20 14.9	8 6.0	11 8.2	6 4.5	2 1.5
妊産婦	69 100.0	29 42.0	42 60.9	33 47.8	9 13.0	17 24.6	10 14.5	4 5.8	4 5.8	1 1.4	1 1.4

(2) 京阪バスの利用

1割弱が週の半数前後京阪バスを利用していますが、乗り降りのしやすさについて障害者や妊産婦の満足度は低くなっています(頁4 2-2 移動制約者の満足度とその原因)。段差の問題は共通であり、障害者や妊産婦では車いすやベビーカーの利用が困難であるなど、車両の構造上の問題が上げられています。

京阪バスの利用頻度

「ほぼ毎日」(1.08%)と「週に2～3回ぐらい」(5.06%)を合わせると、1割弱が週の半数前後京阪バスを利用しています。



京阪バスの乗り降りのしやすさ (満足度)

京阪バスの乗り降りのしやすさについて、障害者、妊産婦について満足度が低くなっています。特に妊産婦について満足度が低く、交野市外への外出方法で「自家用車」が多いことの一因と思われます。

乗り降りの際に困ること

バスの乗り降りの際に困ることでは、高齢者では「段差があり乗り込みにくい」「バス停にベンチがない」「バスの行き先がわかりにくい」といった問題が上げられています。障害者では「車いすで乗り込めない」、妊産婦では「ベビーカーで乗り込めない」「ベビーカー置き場がない」といった車両の構造上の問題が上げられています。

表. バスの乗り降りの際に困ることの上位

	全体	段差があり乗り込みにくい	バス停にベンチがない	バスが来ても行き先がわかりにくい	アナウンスが聞き取りにくい	車いすで乗り込めない	車いす置き場がない	椅子が座りにくい
合計	859 100.0	170 19.8	149 17.3	73 8.5	70 8.1	50 5.8	35 4.1	26 3.0
高齢者	725 100.0	126 17.4	127 17.5	63 8.7	58 8.0	28 3.9	24 3.3	17 2.3
障害者	134 100.0	44 32.8	22 16.4	10 7.5	12 9.0	22 16.4	11 8.2	9 6.7
	全体	ベビーカーで乗り込めない	ベビーカー置き場がない	段差があり乗り込みにくい	バスが来ても行き先がわかりにくい	バス停にベンチがない	椅子が座りにくい	アナウンスが聞き取りにくい
妊産婦	69 100.0	50 72.5	35 50.7	31 44.9	8 11.6	8 11.6	5 7.2	1 1.4

(3) 電車の利用

4分の3がJR河内磐船駅を、4分の1が京阪河内森駅を利用しています。約2割が週の半数前後、それぞれの駅を利用しています。

両駅ともに障害者（なかでも車いす利用者）、妊産婦について満足度が低くなっています（頁4 2-4 移動制約者の満足度とその原因）。

駅舎の移動で困ることとして、エスカレーターやエレベーターの未整備が上げられています。JR河内磐船駅の方が評価が低いことについて、両駅ともにエレベーターは未整備のなかで京阪河内森駅ではエスカレーターが整備されており、この違いが評価の差につながっていると思われます。

エレベーターについて、車いす利用者や妊産婦をはじめ、誰にもやさしい設備として整備が求められています。

駅で情報を得る際に困ることでは、券売機、路線図や料金表が利用しにくいといった問題が上げられています。

妊産婦が駅を利用する際に困ることでは、3割弱は「子どもとの外出時に同伴者がいない」こともあり、子どもと入れるトイレ、おむつ換えの場所、授乳場所がないことへの問題が上げられています。

駅のトイレ利用で困ることでは、「狭い」「腰掛け式の便器がない」「段差がある」といった問題が上げられています。妊産婦や車いす利用者をはじめ、誰にも利用しやすいトイレの整備が求められています。

駅の利用頻度

回答者の約7割（73.4%）が駅を利用しています。駅を利用している回答者のうち、4分の3がJR河内磐船駅（75.2%）、4分の1が京阪河内森駅（24.8%）を利用しています。

「ほぼ毎日」と「週に2～3回ぐらい」を合わせると、約2割が週の半数前後、それぞれの駅を利用しています。

表. 駅の利用頻度

	全体	ほぼ毎日	週に2～3回ぐらい	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない	不明
合計	681 100.0	48 7.0	102 15.0	319 46.8	163 23.9	17 2.5	32 4.7
JR河内磐船駅	512 100.0	36 7.0	71 13.9	247 48.2	136 26.6	15 2.9	7 1.4
京阪河内森駅	169 100.0	12 7.1	31 18.3	72 42.6	27 16.0	2 1.2	25 14.8

駅舎やホームの利用しやすさ

JR河内磐船駅、京阪河内森駅ともに障害者、妊産婦について満足度が低くなっています。特に、JR河内磐船駅において妊産婦の満足度が低くなっています。JR河内磐船駅の方が評

価が低いことについて、両駅ともにエレベーターは未整備ですが、京阪河内森駅ではエスカレーターが整備されており、この点が評価の差につながっていると思われます。

駅舎内の移動で困ること

駅舎内の移動で困ることでは、JR河内磐船駅では「エスカレーターがない」「エレベーターがない」「ベンチが少ない」といった問題が上げられています。京阪河内森駅では、部分的にエスカレーターが整備されていることもあって、「エレベーターがない」が多くなっています。

JR河内磐船駅では、妊産婦は「エレベーターがない」が最も多くなっており、エレベーターの整備は誰にもやさしい設備として求められていることがうかがわれます。

車いす利用者について回答者数は少ないのですが、障害者の自由意見に留意しながら、エレベーター整備のニーズに応えていくことが求められています。

表．駅舎内の移動で困ることの上位（JR河内磐船駅）

	全体	エスカレーターがない	エレベーターがない	ベンチが少ない	通路に階段などの段差がある	通路の幅が狭い	通路や階段に手すりがない	誘導ブロック等、視覚障害者整備がない
合計	512 100.0	310 60.5	231 45.1	175 34.2	106 20.7	18 3.5	17 3.3	11 2.1
高齢者	400 100.0	235 58.8	157 39.3	147 36.8	66 16.5	15 3.8	14 3.5	9 2.3
障害者	65 100.0	47 72.3	35 53.8	14 21.5	22 33.8	3 4.6	1 1.5	2 3.1
車いす利用	9 100.0	4 44.4	9 100.0	2 22.2	5 55.6	2 22.2	0 0.0	0 0.0
妊産婦	47 100.0	28 59.6	39 83.0	14 29.8	18 38.3	0 0.0	2 4.3	0 0.0

表．駅舎内の移動で困ることの上位（京阪河内森駅）

	全体	エレベーターがない	ベンチが少ない	エスカレーターがない	通路に階段などの段差がある	通路の幅が狭い	通路や階段に手すりがない	誘導ブロック等、視覚障害者整備がない
合計	169 100.0	51 30.2	34 20.1	20 11.8	14 8.3	8 4.7	5 3.0	2 1.2
高齢者	141 100.0	37 26.2	26 18.4	16 11.3	10 7.1	7 5.0	5 3.5	2 1.4
障害者	18 100.0	8 44.4	5 27.8	0 0.0	2 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
車いす利用	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
妊産婦	10 100.0	6 60.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

駅で情報を得る際に困ること

駅で情報を得る際に困ることでは、JR河内磐船駅では「券売機が利用しにくい」「路線図や料金表が利用しにくい」「トイレなどの案内表示が分かりにくい」といった問題が上げられています。京阪河内森駅では、駅のホームにトイレが整備されていることから、「トイレなどの案内表示が分かりにくい」が多くなっていると思われます。

表．駅で情報を得る際に困ることの上位（JR河内磐船駅）

	全体	券売機が利用しにくい	路線図や料金表が利用しにくい	トイレなどの案内表示が分かりにくい	時刻表が利用しにくい	誘導ブロック等、視覚障害者整備がない
合計	465 100.0	143 30.8	93 20.0	58 12.5	53 11.4	23 4.9
高齢者	400 100.0	119 29.8	74 18.5	45 11.3	42 10.5	21 5.3
障害者	65 100.0	24 36.9	19 29.2	13 20.0	11 16.9	2 3.1

表．駅で情報を得る際に困ることの上位（京阪河内森駅）

	全体	トイレなどの案内表示が分かりにくい	時刻表が利用しにくい	路線図や料金表が利用しにくい	券売機が利用しにくい	誘導ブロック等、視覚障害者整備がない
合計	159 100.0	25 15.7	15 9.4	13 8.2	12 7.5	8 5.0
高齢者	141 100.0	23 16.3	11 7.8	11 7.8	11 7.8	7 5.0
障害者	18 100.0	2 11.1	4 22.2	2 11.1	1 5.6	1 5.6

駅を利用する際に困ること（妊産婦）

妊産婦が駅を利用する際に困ることでは、「子どもと一緒に入れるトイレがない」「おむつ換えの場所がない」「授乳場所がない」といった問題が上げられています。

表．駅を利用する際に困ることの上位（妊産婦）

	全体	子供と一緒に利用できるトイレがない	おむつを替える場所がない	授乳場所がない	ベンチが少ない
合計	57 100.0	42 73.7	41 71.9	25 43.9	11 19.3
JR河内磐船駅	47 100.0	36 76.6	33 70.2	20 42.6	7 14.9
京阪河内森駅	10 100.0	6 60.0	8 80.0	5 50.0	4 40.0

駅のトイレ利用で困ること

駅のトイレ利用で困ることでは、「狭い」「腰掛け式の便器がない」「段差がある」といった問題が上げられています。

妊産婦では「ベビーカーで入れるトイレがない」「狭い」「段差がある」が多くなっています。また、車いす利用者についても車いすトイレ整備のニーズが高く、妊産婦や車いす利用者をはじめ、誰にも利用しやすいトイレの整備が求められています。

表．駅のトイレ利用で困ることの上位（JR河内磐船駅）

	全体	狭い	腰掛け式の便器がない	段差がある	車いすでも使えるトイレがない	位置が分かりにくい	手すりがない
合計	465 100.0	193 41.5	118 25.4	72 15.5	50 10.8	38 8.2	33 7.1
高齢者	400 100.0	166 41.5	96 24.0	58 14.5	37 9.3	28 7.0	27 6.8
障害者	65 100.0	27 41.5	22 33.8	14 21.5	13 20.0	10 15.4	6 9.2
車いす利用	9 100.0	4 44.4	2 22.2	3 33.3	9 100.0	1 11.1	1 11.1

表．駅のトイレ利用で困ることの上位（京阪河内森駅）

	全体	腰掛け式の便器がない	狭い	位置が分かりにくい	手すりがない	段差がある	車いすでも使えるトイレがない
合計	159 100.0	37 23.3	21 13.2	14 8.8	13 8.2	7 4.4	6 3.8
高齢者	141 100.0	32 22.7	16 11.3	12 8.5	13 9.2	7 5.0	4 2.8
障害者	18 100.0	5 27.8	5 27.8	2 11.1	0 0.0	0 0.0	2 11.1
車いす利用	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0

表．駅のトイレ利用で困ることの上位（妊産婦）

	全体	ベビーカーで入れるトイレがない	狭い	段差がある	腰掛け式の便器がない	位置が分かりにくい
合計	57 100.0	45 78.9	35 61.4	16 28.1	9 15.8	4 7.0
JR河内磐船駅	47 100.0	37 78.7	30 63.8	15 31.9	6 12.8	3 6.4
京阪河内森駅	10 100.0	8 80.0	5 50.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0

2 - 5 自由意見

- バリアフリー整備の自由意見欄には、全体で 222 名の意見がありました。
- そのうち道路についての記述は、約半数の 105 件（高齢者 80 件、障害者 14 件、妊産婦 11 件）となっています。
- その中で最も多かったのは「JR～京阪の乗り換え経路」、「JR南北通路の階段」についてであり、バリアフリー上の問題点が利用者から寄せられています。
- 駅については、障害者や妊産婦ではエレベーター、エスカレーター整備についてが最も多く、JR河内磐船駅では、駅南北の連絡や北改札口の整備が続いています。

表．自由意見の分類と件数

分類	区分	件数			
		高齢者	障害者	妊産婦	合計
道路について	JR～京阪への乗り換え経路	26	1	1	28
	JR南北通路の階段	17	2	3	22
	歩道整備	9	2	3	14
	信号機の設置	3			3
	その他	25	9	4	38
	小計	80	14	11	105
京阪バスについて		4	2		6
JR河内磐船駅について	エレベーター、エスカレーター整備	9	10	12	31
	駅南北の連絡、北改札口の整備	24	3	2	29
	券売機	4	1		5
	その他	3	4	1	8
	小計	40	18	15	73
京阪河内森駅について	エレベーター、エスカレーター整備	4		2	6
	その他	3			3
	小計	7		2	9
駅全体について	エレベーター、エスカレーター整備	3	1	7	11
	トイレ	1	3		4
	券売機	4			4
	その他	5	1		6
	小計	13	5	7	25
その他		3		1	4
合計		147	39	36	222